

平成29年度 第1回昭和町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成29年5月15日(月)
開会 午後3時00分 閉会 午後4時30分
- 2 会 場 昭和町中央公民館 第3会議室
- 3 出席者
- | | |
|--------------------|-------|
| 町長 | 角野 幹男 |
| 副町長 | 志村 武夫 |
| 教育長 | 佐野 勝彦 |
| 教育委員 | 磯部 幸廣 |
| 教育委員 | 清水 正夫 |
| 教育委員 | 太田 學 |
| 教育委員 | 山田 由美 |
| 区長会副会長 | 磯部 光美 |
| 西条新田区長 | 鮎川 哲 |
| 常永小学校長 | 小林 治夫 |
| 押原小学校教頭 | 飯久保一男 |
| 企画財政課長 | 今澤 幸広 |
| 企画財政課行政係長 | 阿部 裕一 |
| 福祉課児童家庭係長 | 山田 学 |
| 企画財政課行政係主任(危機管理担当) | 土屋 修吾 |
| 企画財政課行政係主任(危機管理担当) | 笹本 龍介 |
- (事務局関係)
- | | |
|------------------|-------|
| 総務課長 | 渥美 幸久 |
| 教育委員会学校教育課長 | 五味 隆 |
| 教育委員会生涯学習課長 | 小宮山 毅 |
| 教育指導監 | 古屋 正樹 |
| 総務課総務係長 | 三井 浩樹 |
| 総務課政策秘書係長 | 今村 圭一 |
| 教育委員会学校教育課学校教育係長 | 細田 忠司 |
- 4 協議事項 (1) 今後の児童生徒数の推移に関すること
(2) 防災対策に関すること

別紙（議事詳細）

1 はじめの言葉（渥美総務課長）

2 町長あいさつ（角野町長）

※あいさつ内容は省略

3 前会議事録確認

三井総務係長より、平成28年度第2回総合教育会議議事録の確認について説明を行った。

4 議事

（1）今後の児童生徒数の推移に関すること

① 今後6年間の児童生徒数の予想について

佐野教育長より、今後6年間の児童生徒数の予想について説明を行った。

② 施設設備の改修等について

佐野教育長より、常永小学校・押原中学校・学校給食センターの改修について説明を行った。

五味学校教育課長より、学校給食センターの改修について説明を行った。

③ 児童館に関すること

山田児童家庭係長より、児童館の放課後児童クラブについて説明を行った。

（渥美総務課長）

ただいまの説明に対してのご質問やご意見がありましたらお願いします。

（山田教育委員）

子どもたちが増加してきているが、私も愛育会に入っていますが、先日、これからも子どもが増えていくという話があった。例えば、小学校の教室の確保はどうなっているのか。押原小学校には空き教室があるので、西条小学校や常永小学校の児童が来ることができないか。何らかの対応をしないとかならないと思う。

児童館に関して、お母さんたちは定員を増やしていただいて大変ありがた思っているし、とても助かっていると話している。6年生までの児童を預からなければならないため、職員の確保が厳しいと聞いている。児童20名に対して職員1名の対応をしなければならないので、資金的なこと

もあると思うので、保育園の先生と同じくらいの賃金にしてもいいのではないか。

(佐野教育長)

学校には学区があり、学区の中で子どもたちは決まった学校に行くわけです。他県の状況を見ると、学校が近くにたくさんあって、選択するということもありますけれど、昭和町の現状を見ていくと、例えば築地新居地区の子どもたちを学区の選択制度ということになると育成会等の関係や同じ地区にいながら違う学校ということになっていくと地区での行事がやりにくいということが出てきてしまうことになります。そのようなことがあり、なかなか学区の改正というのがうまくいかないということがあるわけです。このことについて検討していくとなれば皆さんと話し合いを行い、時間をかけてやっていかないと地域の方々がこれまでやってきたことがありますので、時間がかかってしまうのではないかと思います。

(磯部区長会副会長)

築地新居区は一時期、常永地区というスタンスでしたが、現在は押原地区ということで子どもは押原小学校に通学していますが、釜無工業団地方面から通学する子どもは距離があり大変です。やはり教育長がおっしゃったとおり、地域としては同じ学区にあるのが望ましいと思います。遠い地区の子どもは近くの学校に行き分かれてしまうのも地区としては行事とかいろいろなことで大変なことだと思います。

(佐野教育長)

現在、昭和町内を見ていくと人口が増え、区が大きくなってしまっているのが現状です。大きくなった区を分けていくことも考えていかなければならないと思います。常永小学校は7割が河西区の子どものなっているのが現状です。そうなることでどこかで地区を分けていかないと例えば区長さんが1人で全体のことを把握することも大変なことだと思うし、区民が増えすぎてしまって、区の活動ができないこともあるのではないかと思います。そういうときに学区も絡めてやっていくことを考えていかないとならないと思います。

(磯部区長会副会長)

これまでの固定概念にとらわれないで区割りを変えることはいろいろな意見があると思うので事前に準備しないといきなりはできないと思います。やはり、子どもが大事だと思うのであれば、大人がどのようにすればよいかということについていつも考えて気持ちを寄せていくということをしてほしいとい

けないと思います。

(志村副町長)

今の話の中の築地新居区の子どもが押原小学校に通学することになった経過の中で、昭和バイパスが開通し、通学に危険がないのはどれかということ、地域と一緒に考えた。育成会の活動をどういう形で行っているかについて考えた。当時、西条・押原・常永の地区内で子どもたちが同じ集まりの中でいろいろな活動をしているかについて、地域の中では行っているが、大きな地域の中では活動はしていなかった、また通学の危険の少ないことから、築地新居区は押原小学校の学区になった経緯があります。

それからもう一点、児童館についてですけれども、金額の問題もあるのですが、放課後児童クラブについては午後からということがありまして、半日勤務の職員を採用するということが、やはり皆さん1日勤務をしたいという人が多いので、面接をして半日勤務でもいいか確認する中で断られたりすることが多い。1日勤務ということであれば募集すればそれなりの人数が集まるが、なかなか難しい。町である程度余裕をもって半日勤務の職員を1日勤務の職にしていけば人数の確保ができるのではないかと思います。

(磯部教育委員)

先ほど教育長の説明にあった押原中学校ですが、生徒数が最大700名くらいになるということと、平成32年度には教室が足りなくなるということで特別教室を普通教室に変える、また常永小学校について、資料を見ると生徒のピークは平成34年で下がっていきませんが、生徒が多いときは図工室を教室に変えて対応するとのことですが、なにか弊害が出るのではないかと。

(佐野教育長)

弊害が出ないという嘘になりますが、当然のことながら特別教室は必要ですし、効果があると思います。今現在、町の財政を考えたときに教室を増やしてしまって、児童生徒の人数が減ることが分かっているのに、教室を新設することが良いことなのか問題です。町とすれば教育的なことを考えたときには何とか代行できる中で工夫していただきたい。問題となるのは音楽の授業で、低学年は教室でやっているがうるさいということで扉を閉めてできるように改修を行いましたので、やや改善すると思います。高学年は特別教室がありますので問題ないと思います。町の財政を考えていただき、学校で工夫をしてやっていただきたいというのが教育委員会の考え方です。

押原中学校につきましては、平成41年度くらいには生徒数が700人を超える数になってきますので、全学年が7学級になり、普通学級が満杯になります。その点につきまして、中学校を全部改修するという事も考えていかなければならないと思います。

もう一つは、今の中央公民館の機能を生かして、図書館の機能をそれに付け加えたような形の生涯学習館の建設も考えていますが、建設用地の問題があり、もし、中学校を建て替える場合の用地、建設予定の生涯学習館や役場本庁舎も含めて、総合的に考えていかなければならない。今現在のところ、整理できていないので大変申し訳ないと思います。子どもたちに不便をかけないように時期までにはまとめていきたいと考えています。

(清水教育委員)

子どもが増えることは喜ばしいことだと思います。

私が高校生の時は55人くらい1クラスにいました。今、中学生が計算すると1クラス35人くらいいます。先生の定数が5人で1クラス増えると2人くらい増えると思いますが、1クラスどのくらいの数まで対応できるのかギリギリのボーダーラインはどれくらいか。

もう一つ、押越、河東中島、紙漉阿原の調整区域はどれくらいまで開発できるのか。どれくらい人口が増えるのか。

(佐野教育長)

国の基準では小学校1年生は35人、それ以外の小学校2年生から中学校3年生までは40人となっています。

山梨県の場合、小学校1・2年生は30人、小学校3年生から中学校3年生までは35人となっています。これは県のががやけプランで行っており、選択肢があります。35人から40人までは選択ができます。教室数を増やすか、先生の数を増やすか選択することができます。

現在は先生の人数も増えてきており、職員室に入りきれない状態となっています。そういうことも子どもたちの教室だけでなく、併せて考えていかなければならないと考えています。

(小林常永小学校長)

子どもの上限や教員の数ということもありますが、児童が使用する机の大きさも一回りほど大きくなったため、教室自体に余裕がなくなってきている。

昨年度の6年生の教室は33人でしたが、教室が手狭で入りきらないため、ロッカーを廊下に出して対応をしました。教室を増やすという形のほうが望ましいと思います。

(渥美総務課長)

ありがとうございました。

町でも皆さんの意見を参考に検討していきたいと思います。

それでは、2つ目の議題「防災対策に関すること」についての説明を行いたいと思います。

今後、大規模地震が高い確率で起きることが予想されています。その際には学校が避難所として使用されることが多くなると考えられます。その際の避難所運営が円滑に行うことができるような準備が必要であると考えています。また、学校と地域と行政機関の連携も当然必要となります。今回はそのことについて考えていきたいと思います。まず最初に避難所として使われる学校の避難所マニュアルについて説明をお願いし、次に町の避難所運営に関するマニュアルについて説明していただきたいと思います。

(2) 防災対策に関すること

① 大規模地震発生時の各学校の避難所運営マニュアルについて

飯久保押原小学校教頭より、学校の避難所管理運営マニュアルについて説明を行った。

② 行政機関と各地区・学校との連携について

土屋危機管理担当より、行政機関と各地区・学校との連携について説明を行った。

(渥美総務課長)

ただいまの学校の避難所マニュアル、町の避難所運営に関するマニュアルの説明に対してのご質問やご意見がありましたらお願いします。

(磯部教育委員)

押原小学校避難所管理運営マニュアルの5頁に避難場所が書いてありますが、私は築地新居区ですけれども、町の地域防災計画で地域交流センターが指定されています。押原小学校は避難場所になっていないと思います。

(笹本危機管理担当)

昭和町地域防災計画は平成25年4月に見直しを行っており、押原小学校避難所管理運営マニュアルに記載されている避難場所は見直し前のものなので、押原地区については地域交流センターが避難場所になっています。

町では、西条小学校、地域交流センター、常永小学校の3箇所を避難所

としています。こちらの3箇所がいっぱいになった場合に昭和高校と押原小学校を避難所としています。

(磯部教育委員)

地震が発生した場合、地域交流センターのバスケットゴールがあったり照明があったりして本当に大丈夫でしょうか。また、地域交流センターには3地区が集まってくるので、避難所運営委員会を作ったとしても、あらかじめ準備をしておかないと、3地区が話し合っどどのように開催するかやっておかないと、その場に行って3地区が一緒になってしまいなかなか運営委員会がすぐには立ち上がらないと思います。事前準備が必要だと思います。

熊本地震の時は自動車避難する人が非常に多かった、そういう人たちを受け入れる場所をどこかに作っておかないと今後は難しいかと思っています。

(土屋危機管理担当)

バスケットゴール等が不安ということですが、こういったものが非構造部材と言われ方をされておまして、避難所にあるということについて問題がないかどうかということ年1度確認をしておまして、今現在は問題ないということですが、定期的に私たちのほうでも見ていくことでしっかり対応していきたいと思っています。避難所開設の際にはチェックシートというものがありまして、事前にチェックする項目となっていますのでしっかり問題がないか確認して開設していきたいと思っています。

車での避難についてですけれども、昨年、熊本地震が発生しまして、車中泊が課題となりました。こういったことを受けて町ではブルーシート・テントなどを購入し、また年次的に揃えていくことになっており、こういった対策もしっかり行っております。こういった方が一気に避難所に来てしまったらどうなるか。避難所は災害が起きたらすべての人が避難する場所ではなくて、災害が起きたらまず地域で安否確認を行っていただいて、自宅に問題がなければ避難所に避難する必要は全くありません。自宅に戻って在宅避難をしていただきたいと思っています。ですからすべての人が避難してくるとは想定していませんが、多くの人が避難してくるとは思います。車で避難してくる人をすべて受け入れるスペースもありませんので、できる限り徒歩で避難をお願いしていますが、車で避難してくる人がエコノミー症候群等にならないようにテントなどを状況把握する中で配布して対応を図りたいと考えています。

避難所で3地区または4地区の自治会が集まって運営することになっていますが、私たちもそこを一つの課題として考えておまして、災害が起きて皆さんが集まって、運営するという事は非常に難しいと思いますの

で、今後の訓練などで自治会の皆さんが集まる場において、避難所運営がどういったものになるのかイメージが持てるような訓練などを進めていくことを検討しておりますので、区長さんたちのお力添えをいただくこととなりますが、災害が起きる前に避難所運営委員会が開かれるような、イメージが共有できるような訓練に取り組んでいけるように考えています。

(渥美総務課長)

ただいま、避難所の運営委員会の話しがありましたが、区長さん方から何かありますでしょうか。

(鮎川西条新田区長)

西条新田区では、緊急時の連絡網がなく、また防災マニュアルもできていないので早急に作成しなければならいと思います。

(磯部区長会副会長)

築地新居区は防災に力を入れているが、大規模な災害が起きた時のことを実際イメージできないというか、机上で話し合いをしているが、2年くらい前から中学生も参加して防災訓練を行っていきまして、昼間の日中、大人がいないときには中学生が担い手になりますという声も聞いています。一度にすべてクリアすることはできないと思いますが、日ごろから動けるように、いつも災害のことを頭に入れて、区民の皆さんが行動できるように訓練を行っていきましょうということはいつも言っている。大きなことは行政で指導していただくが、私たちは区民として災害が発生したときにどのように行動できるかということがポイントだと思いますので、日ごろから心に置いておきたいと思います。

(渥美総務課長)

ありがとうございました。

他にご意見はございませんでしょうか。

ないようなので、その他、何かありますか。

(太田教育委員)

3月末に西条小学校で西条地区の評議委員会が開かれたが、区長が学校へ行ったのは初めてという状況だった。ひとつは、区と学校の接点が私もいくつか学校の校長をしていましたが、評議員に対する対応も学校によって違った。その時は気が付かなかったが、常永小学校の時には区長さんたちは卒業式に出席したが、西条小学校ではよばれていない。私も区長になって初めて気がついた。区に対する対応に学校ごと共通性がないということに

気がついた。やはり、その辺は校長会なり四校会で区に対する関わりは基準があったほうが私はいいと思いました。

もうひとつは、学校開放という言葉の中に教育課程の開放、教育内容の開放、施設設備の開放等いろいろな開放がありますが、昭和町は建物がいいと言っているが、学校開放で地域にも呼び掛けていると思いますが、展望台はほとんどの人が上ったことがない。展望台は昭和町の一番いい眺望を誇れる場所だし、眠っている。私が常永小学校の校長の時に展望台でコンサートをしました。私は最高の眺望を誇る施設が開かずの扉になっているが、いろいろなことで活用していただきたい。地域の皆さんとの連携、学校開放日の見直しを検討していただきたい。工夫をして地域の文化遺産としての学校の活用を考えていただきたい。

(山田教育委員)

児童館に子どもたちが滞在する時間は結構長いと思いますが、その時に災害が起きたときに児童館の指導者の先生方の対応とか訓練を行っていますか。

(山田児童家庭係長)

年に1回行っております。

(渥美総務課長)

他にご意見はございませんでしょうか。

それでは、本日は様々なご意見をいただきましたが、皆様からのご意見は、これからの教育行政の中で生かしていけるよう努力したいと思います。

本日は長時間にわたりありがとうございました。